主図版・張鎮墓誌（部分原寸大）

晉故散騎常侍建
威將軍蒼梧吳二
郡太守秦車都尉
興道縣德侯吳國
吳張鎮字義遠之

「落ち穂拾い記」⑦
張鎮墓誌



図① 王興之墓誌・裏面





図② 張鎮墓誌・表裏両面拓本



図③ 張鎮墓誌・原石写真



図④ 張鎮墓誌・集字





張鎮墓誌

書のひろば

理事長　下谷洋子

書道芸術院秋季展
併催「書道芸術院前衛書展」

本院の主軸の行事の一つ秋季展が、10月7日から12日まで、セントラルミュージアム銀座で開催されました。今回の併催は昨年に続き「書道芸術院前衛書展」として、アートサロン毎日で行いました。

セントラルミュージアム銀座には、本院財団役員(顧問・理事・監事・評議員・参事)に参与、2月の院展の特別選考に合わせて選抜された作家(春華賞候補)、新審査会員、審査会員候補の公募入賞者の作品が143点展示されました。

今回も、公募の他の作品は下見会を経ての出品となりました。5部門を擁する書道芸術院ですので、観覧者は多彩な書を楽しみに来場される人も多いようです。若干、展示数が少なくなった関係で展示はスッキリとし、作品は落ち着いた感がありましたが、反面、斬新な作品や強い個性の作品が少なくなったようにも思いました。

11日には、秋季展公募の表彰式および前衛書展の大作出品者を中心に研究会が行われ、終了後は会場をコートヤード・マリオット銀座東武ホテルに移して祝賀懇親会が行われました。

ご来賓には毎日新聞社の南敦子様、学芸部の桐山正寿様、毎日書道会の竹下享子様がお見えになり、温かなご祝辞を賜りました。



研究会での理事長あいさつ

アートサロン毎日の前衛書展は、各地域から選抜された前衛書部門の中堅作家の作品が展示されました。11日には、昨年に引き続き奎星会の中原志軒先生をお招きしての研究会も開かれました。各出品者も制作にあたっての熱い想いを語り、中原先生も前衛書について熱心に語られ、参加者は改めて前衛書というものを深く考える機会となったと思います。

来年は現代詩文書展になります。

(両展とも詳細は後頁に掲載)

令和7年度高野山書道協会
常務理事会開催

10月22日(水)高野山東京別院の奥書院にて、高野山書道協会の常務理事会が開催されました。本院からは小竹石雲常務理事、種谷萬城理事、と私が出席。

協議事項は次の通りです。

⊙第59回高野山競書大会経過報告

⊙第60回(令和8年度)高野山競書大会開催について

1.各日程の件

2.審査委員長選出の件

3.審査副委員長、大会運営委員選出の件

4.当番審査員選出の件

⊙その他

・来年度大会案内の件

・新参事候補の件

右協議事項は、12月7日(日)の理事会において決定されますので、追ってお知らせします。

「平安王朝美の再現者
田中親美と尾上柴舟」展開催

10月20日～25日まで、アートサロン毎日にて「平安王朝美の再現者—田中親美と尾上柴舟—展」が開かれました。田中親美は、「西本願寺本三十六人家集」や「平家納経」など数々の王朝美術の模写を手掛けるとともに、古筆の鑑定や切断などにも関係しました。本年は田中親美生誕150年没後50年にあたるための企画展示でした。

親美による石山切や、佛説阿弥陀経、親美「本阿弥光悦書・俵屋宗達画　四季草花下絵千載和歌巻」、親美平家納経副本制作を支援した益田鈍翁らの奉納文や鈍翁自画賛など、珍しい資料も陳列、また、尾上柴舟「料紙和歌帖」や親美一門による縣治郎の料紙屏風など貴重な作品も鑑賞できました。近衛家熙公筆「不空羂索観世音霊像記」一巻も特別出品されました。

今回はガラスケースのない陳列方法だったため、本物の作品の様々な表情に触れ、日本人の美意識を再認識できる意義ある機会となりました。

なお、成田山書道美術館でも12月14日まで、親美の生誕150年を記念した田中親美—書家との交流を中心に—の展覧会が開催されています。

漢字書基礎基本講座 (18)

種谷萬城



『石門頌』拓本「充高祖受命」


『石門頌』
陳列風景



『石門頌』臨書「高祖受命」



『石門頌』倣書「寬緯」


『石門頌』基本点画

隷書3　石門頌

『石門頌』の原石は、陝西省漢中市博物館に現存。元々は漢中市の北17㎞の褒斜道南端に位置する『石門』と通称される隧道（トンネル）の道内西壁に刻された摩崖。1967年に『石門ダム』の建設が始まり、『石門頌』は隧道もろとも水没の予定であった。そこで漢中市博物館長・郭榮章先生らの尽力で、石門の摩崖碑を厚さ30㎝ほどに剥がし、1971年に『漢中市博物館』に運び、1981年新設の『石門十三品陳列室』に保存陳列した。

『石門頌』の碑文の内容は褒斜道と石門の修復に貢献した楊孟文と王升の功績を讃えたもの。書体は、波磔のある隷書・八分。書風は、呼吸の長いなだらかな筆運びで書かれ、懐ろが広く雄大。隧道の内壁に刻された碑面は湾曲し、かなり凹凸がある。石の凹凸や石理を考慮した書丹（碑面に朱墨で直に下書き）。字径は7㎝程で、大小がある。この時代の日常書写材料は木簡。通常の木簡は幅1㎝程度。これに較べると『石門頌』はかなりの大字になる。これも意識して書かれた結果の趣きか。また、『命・誦・升』字に縦画を気持ちよく長く伸ばした書き方が見られるが、これは木簡に多く見られる書きぶりで、その心憎いばかりの空間処理に、書き手の日常書写の美意識が窺える。

※ユーチューブ『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。ＱＲコードでアクセスできます。

筆のサロン
QRコード

―― 基礎基本講座 ――

篆刻・刻字基礎基本講座 (18)

後藤大峰

前回(17)まで篆刻、刻字について様々な、お話を致しました。

今回は刻字の成り立ちについてお話を進めて行きたいと思います。

書道の部門として刻字がスタートしたのは今から60年ほど前であります。

書道の部門としては一番新しい部門です。

書稿（原稿）を書き、板に写し、刃物で彫るその一連の作業で生み出される作品、これが刻字です。それに魅了されて作品を作り上げる。それが刻字の醍醐味です。

そのスタートは神社仏閣に掲げられる「木額」などが始まりだと承っております。

それを「書作品」にまで質を上げていった先人達のご努力は並大抵のことではなかったと思います。改めて敬意を表したいと思います。

刻字は今や国際的な拡がりも見せ、書の故郷中国はもとより韓国、シンガポール等の所謂「漢字文化圏」にまで発展致しており、さらに欧米の国々にも拡がりをみせ、「英字」の刻字も見ることがあります。

その発展のきっかけをお作りになったのが「香川峰雲先生」。先生の、お作品は皆様もご覧になる機会あれば是非ご覧になって下さい。実に素晴らしいです。

このように書道芸術院は刻字分野においても重要な位置を占めております。

筆者と致しましては、もう少し書道芸術院の篆刻・刻字部の会員を増やしたく思っております。

書道芸術院
令和の群像（2025）



藤原聖美（大阪）

「私にとっての臨書」

私が臨書に興味を持ったのは、今から30年前、書道を本格的に学び始めた頃のことです。きっかけとなったのは、王羲之の「喪乱帖」でした。その筆致は変化に富んだ華麗さを備えつつも、線には勢いと力強さがあり、初めて見たときにはただただ圧倒され、心を奪われたのを今でも鮮明に覚えています。

その頃、私は恩師である故・山内孝石先生のもとに入門し、競書とあわせて臨書を学び始めました。先生はいつも「臨書は、ただ有名な書家の字を真似ることだけではない。その字が書かれた時代や背景、筆者の思いまで想像しながら筆をとるのだ」と語っておられました。文字の形をなぞるだけではなく、その一画一画に込められた気配を感じ取ることで初めて臨書が真の学びとなるのだと教えてくださいました。

臨書は、実に奥が深く、取り組めば取り組むほどに難しさとおもしろさが増していきます。形を正確に真似ることすら難しいのに、そこに筆者の息づかいを乗せようとすれば、さらに高い集中力と感性が求められます。けれども、だからこそ飽きることがなく、筆を持つたびに新しい発見があります。

山内孝石先生が逝去された後は、ご縁があり木曜講座で故・恩地春洋先生にご教示を賜りながら臨書の学びを続けることになりました。恩地春洋先生が逝去された後は小林琴水先生にご指導いただいています。先生方の教えを通じて、私は書の技術だけでなく、書と真摯に向き合う姿勢も学ばせていただいています。

臨書を重ねることで、筆遣いやリズム、呼吸の大切さが少しずつ体に染み込んでいくのを感じています。小林琴水先生がいつもおっしゃっているように、そうした積み重ねがやがて作品づくりへと繋がっていくのだろうと思います。

名筆に学び、古人の心に寄り添う時間は私にとってかけがえのない修練の場であり喜びの源でもあります。

これからも、謙虚な気持ちを忘れず、一筆一筆を大切にしながら臨書に励んでいきたいと思います。



第78回書道芸術院展「雑詩其の一（陶淵明）」　藤原聖美書

書道芸術院秋季展

書道芸術院役員・審査会員選抜・審査会員候補公募

併催　「書道芸術院前衛書」展
会期　令和7年10月7日(火)～10月12日(日)
会場　セントラルミュージアム銀座
　　アートサロン毎日

秋季展実行委員長
後藤大峰

まだまだ暑さの残る今秋、恒例の「書道芸術院秋季展」がセントラルミュージアム銀座にて開催された。

今回展も例年の財団役員、審査会員選抜と審査会員候補の公募による入賞作品に加え、2年目となる「書道芸術院前衛書展」はアートサロン毎日にて開催された。

出品点数はセントラルが全143点、アートサロン毎日では22点が展示された。10月11日には表彰式、研究会が行われた。それに先立ち同日の午前中にアートサロン毎日で出品者によるトークショーが下谷理事長、実行委員に加えて、ご来賓として「奎星会」の中原志軒先生を迎えて開催され、出品者、参観者の皆様にとって、有意義な時間となった。表彰式、研究会では各表彰とともに映像による作品解説が行われた。会場には「書道芸術院前衛書展」の出品者も出席、作品紹介をし、会場の雰囲気は盛り上がりを見せた。

その後、会場を移し昨年同様、懇親会を毎日新聞社の南敦子様と桐山正寿様、毎日書道会の竹下享子様をご来賓にお迎えして行い、役員、会員が和やかに親睦を深める光景が見られた。

最終日、銀座会場は午後5時閉会、アートサロン会場は午後2時に閉会し撤回作業も無事終了した。多くの役員、会員の皆様の、ご支援、ご協力を得て、また、皆々様のご発展を祈念し、終章とする。

秋季展公募入賞者

◇秋季菊花賞（7名）
本誌特集ページ（P8・9）にお名前と作品を掲載しました。

◇秋季俊英賞（25名）

漢字	阿部　雅悠	荻田　良風
	金澤　峰雪	川渕　吏子
	佐茂　明祥	渋谷　蛍江
	古川　彩遥	三浦　小樹
かな	井上　智美	
現詩	上野　千琇	佐久間玉瑛
	佐藤　俊光	下津　舟楓
	高橋　真弓	芳賀　真桜
	日髙　右真	舟寳　恵美
	山崎　紫心	
前衛	赤羽根えり奈	遠藤　和香
	佐々木藍水	高瀬　享美
	鶴淵　亜希	藤崎　松月
	御園生芳瑤	



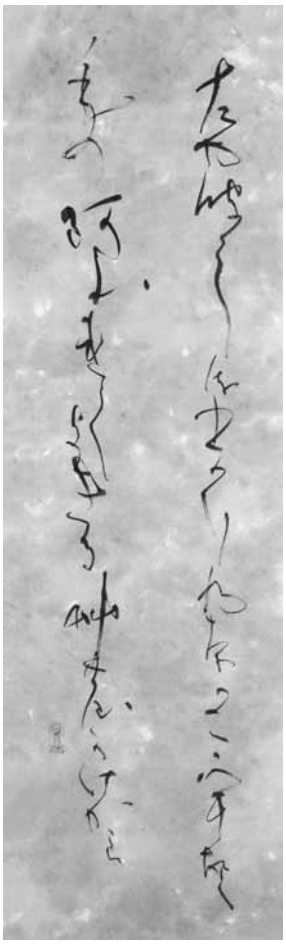
セントラルミュージアム銀座にて

2025年　書道芸術院秋季展公募出品集計

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	選外
漢　字	65	65	2	8	55
か　な	11	11	1	1	9
現代詩文書	47	47	2	9	36
篆刻・刻字	0	0	0	0	0
前衛書	46	46	2	7	37
合　計	169	169	7	25	137

書道芸術院秋季展

会期　令和７年10月７日(火)～10月12日(日)
会場　セントラルミュージアム銀座（紙パルプ会館）



〈艸の影〉

理事長・常任総務　下谷洋子

175×53㎝



〈片山由美子の句〉　顧問・名誉会員　辻 元 大 雲　53×78㎝



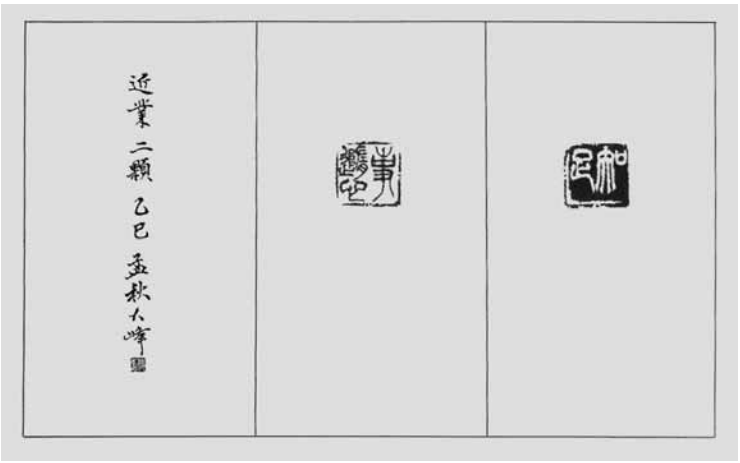
〈死海文書〉　常務理事・常任総務　千 葉 蒼 玄　90×120㎝

〈御神體は蛇〉　常務理事・常任総務　小竹石雲



158×45㎝





〈近業二顆〉　常務理事・常任総務　後 藤 大 峰　70×100㎝

審査会員候補
秋季菊花賞

〈鷗〉



伊藤明秋

117×90㎝

〈知白守黒〉



相内沙莉

170×50㎝

〈故郷〉



小野寺礼華

110×80㎝

〈長恨歌〉



宮崎春泉

176×53㎝

〈一穂の詩〉



藤井花香

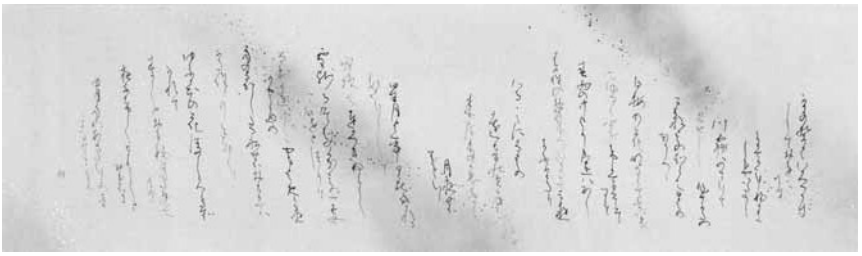
105×106㎝

〈期―とき―〉



和田敬子

151×73㎝



〈柿の葉は〉　逸見玲子　53×180㎝

〈併催〉「書道芸術院前衛書」展

会期　令和７年10月７日(火)～10月12日(日)
会場　アートサロン毎日（竹橋・パレスサイドビル１Ｆ）

前衛書展ごあいさつ

書道芸術院前衛書展は、伝統を継承しつつ地域にて研鑽を積む中堅書家の優れた作品を精選し、披露するものです。選出された書家は、それぞれの地に伝わる伝統を尊重しながら、現代的視座をもって独自の境地を拓き続け、新たなる表現の探究に努めてきました。

また、各地で研究会を重ね、書の理論と技法を深く究める機会を設け、数年ごとに東京にて「前衛書とは何か」を主題とする展覧会を開催し、多彩な作品を世に問うてまいりました。

本展を通じて、地域に根ざす書家の活動が書道文化の隆盛につながることを信じています。伝統を未来へと継承する営みの中で、今後も革新をも恐れぬ挑戦を続けていきたいと思います。

（出品者一同）

《山口仙草》



〈公〉

55×17㎝

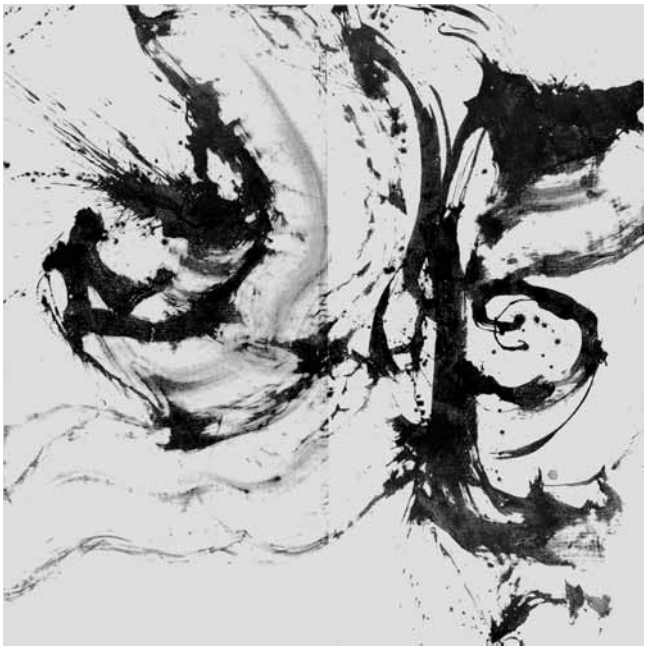
《北村白琉》



〈爽〉

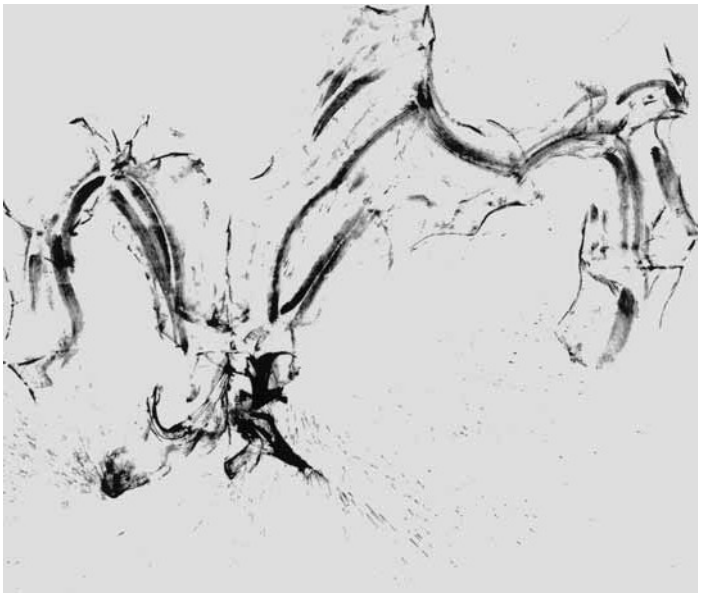
45×47㎝

大作　《宮　﨑　芳　玉》



〈地〉　190×190㎝

大作　《藤　原　紅　雲》



〈翔ケル〉　200×200㎝

大作　《 金　井　みどり 》



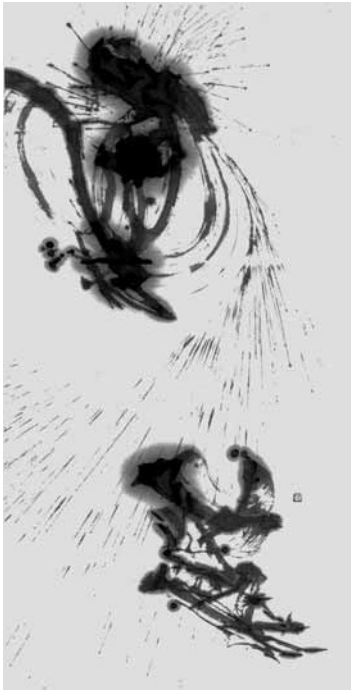
〈 流 〉　　175×145㎝

大作　《 青　木　か　よ 》



〈 飛 〉　　97×178㎝

≪高橋清琳≫
〈GLAD〉



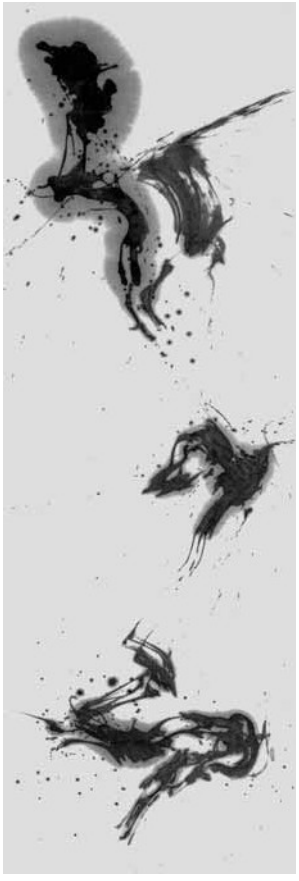
152×73cm

≪荒井柊雲≫
〈聖〉



180×60cm

≪一條紅蕭≫
〈揺蕩〉



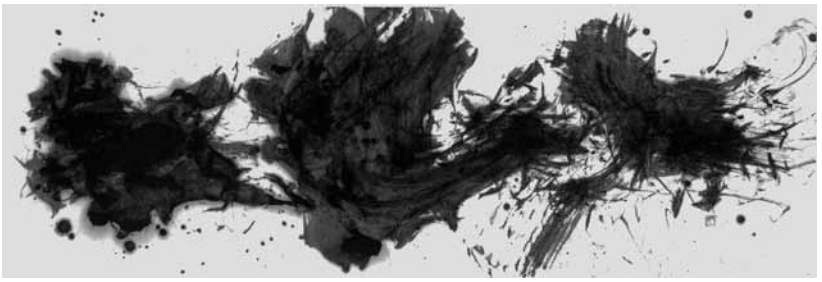
182×61cm

≪花里智子≫
〈新〉



136×70cm

《石　黒　和　喜》



〈遠〉　60×180cm

《梅山久子》

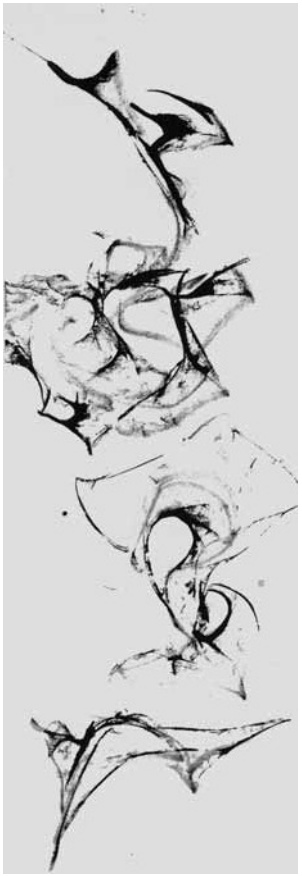
〈共鳴〉



152×73cm

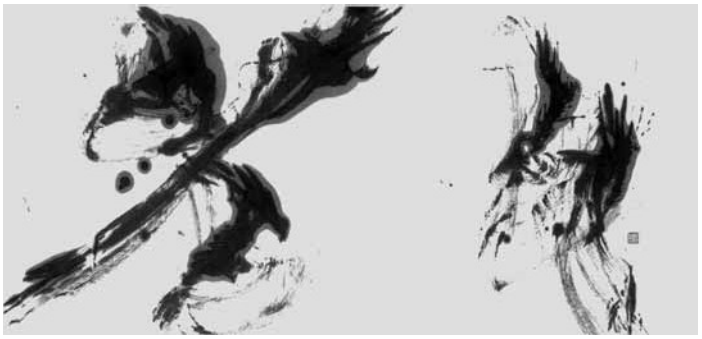
《大友紅蓉》

〈繋ぐ〉



182×61cm

《安　藤　楊　風》



〈渉〉　73×152cm

《大庭幸石》

〈風刻〉



180×60㎝

《工藤山房》



〈聴による〉　89×119㎝

《小野寺　三枝》



〈不易流行〉　61×182㎝

《木原尚子》



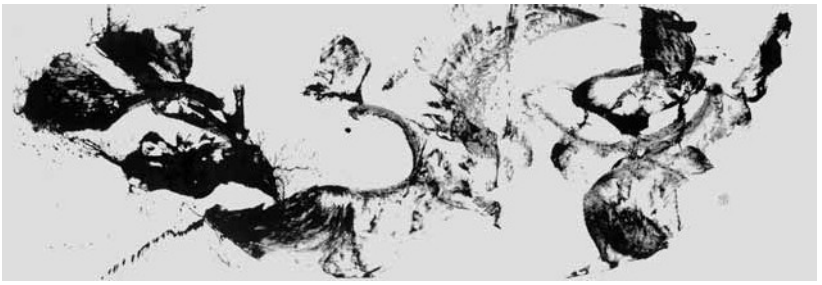
〈Om-風を追う〉　60×178㎝

《 小板橋　り　か 》



〈 暢 〉　61×180㎝

《 高　木　百合子 》



〈 禱 〉　73×182㎝

《吉田恵弦》〈Passion〉



182×61㎝

《林　一宏》〈泉〉



182×61㎝



会場風景（銀座）



展示作品（銀座）



会場風景（銀座）



院展大作予定者 3 名（銀座）



会場風景（前衛書展）



会場風景（前衛書展）



表彰式



表彰式

古典鑑賞 486

李嶠詩断簡（伝 嵯峨天皇筆）②

漢字研究部臨書課題 ＝（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 ＝（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可　B.小品の部―半切以上半切以内・全紙以内も可（A・B縦横自由））当該古典の左記掲載部分以外も可。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

〈解説〉先月の続きの部分が今月の課題である。ここでは「李嶠詩断簡」の特徴の一端を、3行目の「月」字を取り上げて見ていくことにする。

①外形は背勢に見えるが、向勢の要素を巧みに織り交ぜている。1画目の左の空間と2画目の書き出しの湾曲が、窮屈さを救っている。「風」「鳳」も同様。

②2画目の転折部は強く打ち込み、弾力を生かして下に運筆する。下部で筆管が向こう側に倒れた状態から一回軽く突き込みを入れてハネに移る。このように筆の上下動を激しく行っている箇所がある。

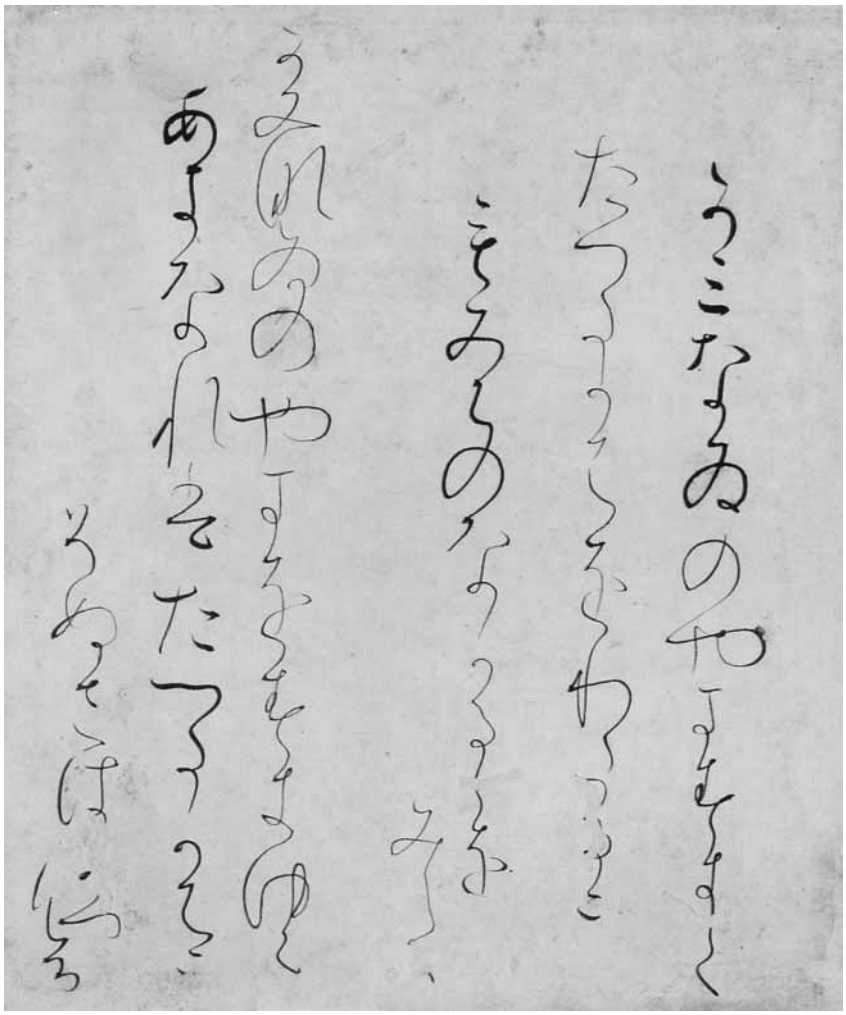
また、筆順の資料を53ページに掲載しました。筆順の考え方はいろいろありますが、ご参考まで。（編集部）



穎川曲、誰識聚賢人。／落日正沈々、微風生北林。帯花／疑鳳舞、向竹似龍吟。月影臨／秋扇、松声入夜琴。若至蘭台

※掲載図版95％縮小
（原寸にするには105％拡大して下さい）

㉖⓪ 升色紙（伝 藤原行成筆）②



三井文庫蔵　　※掲載図版原寸

〈よみ〉

かみなゐのやまずぎて（可三万春支旦）
たったがはをわたるに（多多可者ニ）
もみぢのながるゝを（毛可）
みて（旦）
かみなゐのやまをすぎゆく（可那万春支久）
あきなればたったがはに（支盤多可者ニ）
ぞぬさはかづ（曽可）
ける（介）

〈解説〉今月の課題も最初の4行が詞書で、後半部分が和歌本文である。前半は行間がゆったりとしていて、後半は行間も字間も詰まった感じがする。特に「ける」は無理やり入れ込んだ感じもなくはない。ただ、線質はゆったりとのびやかで、せわしい感じは全くない。ところどころ破損があり、線が切れたように見えるので、臨書の際は留意したい。

字形については、1・5行目「万」、5行目「み」が珍しい形である。それぞれ「支」、漢字の「又」にならないようにしたい。また、2・6行目下部の「二」が「こ」に見えないように工夫することも必要である。

そして、太い線と細い線のコントラストもこの古筆の魅力なので、含墨量の調整も大切である。（編集部）

※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

かな研究部臨書課題	（半紙普通判（**料紙可**）・**縦長**に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より**歌一首以上を書く。（全臨も可）**
特別研究部臨書課題	A．大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可 B．小品の部＝半切½以上、半切以内（縦横自由）、全紙½以内も可 ＜いずれも上記の**掲載**以外も可。＞

漢字規定　初段以上　【12月10日締めきり】　用紙　半紙普通判

後藤大峰選書



荒庭白露秋　よみ（荒庭白露の秋）

書体＝自由

習い方解説 (2)

後藤大峰

荒庭白露秋　（張説）
（荒庭白露の秋）

深くなった秋、草花もなくなり白露が庭を、覆っている。

文字は褚遂良の「枯樹賦」を意識して〝規矩整然（きまりや手本に則り、きちんと整えること）〟と伸びやかに書きました。唐代の書家である褚遂良は、書の古典の中で筆者がもっとも注目しており、初学の時代よりよく好んで書いておりました。特に「枯樹賦」「文皇哀冊」さらに「雁塔聖教序」は注目して来ました。そしてよく書きました。

筆は兼毫筆を使用しました。

この書風で書く時は入筆で穂先を引っかけるか、突き込むことです。その反動を利用しながら、リズム良くまとめることが大切です。是非、挑戦してみて下さい。

漢字規定 秀級以下 【12月10日締めきり】 用紙 半紙普通判

大平邑峰選書



気宇宏豁　よみ（気宇宏豁）

書体＝楷書

習い方解説 (2)

大平邑峰

気宇宏豁（四字熟語）
（気宇宏豁）

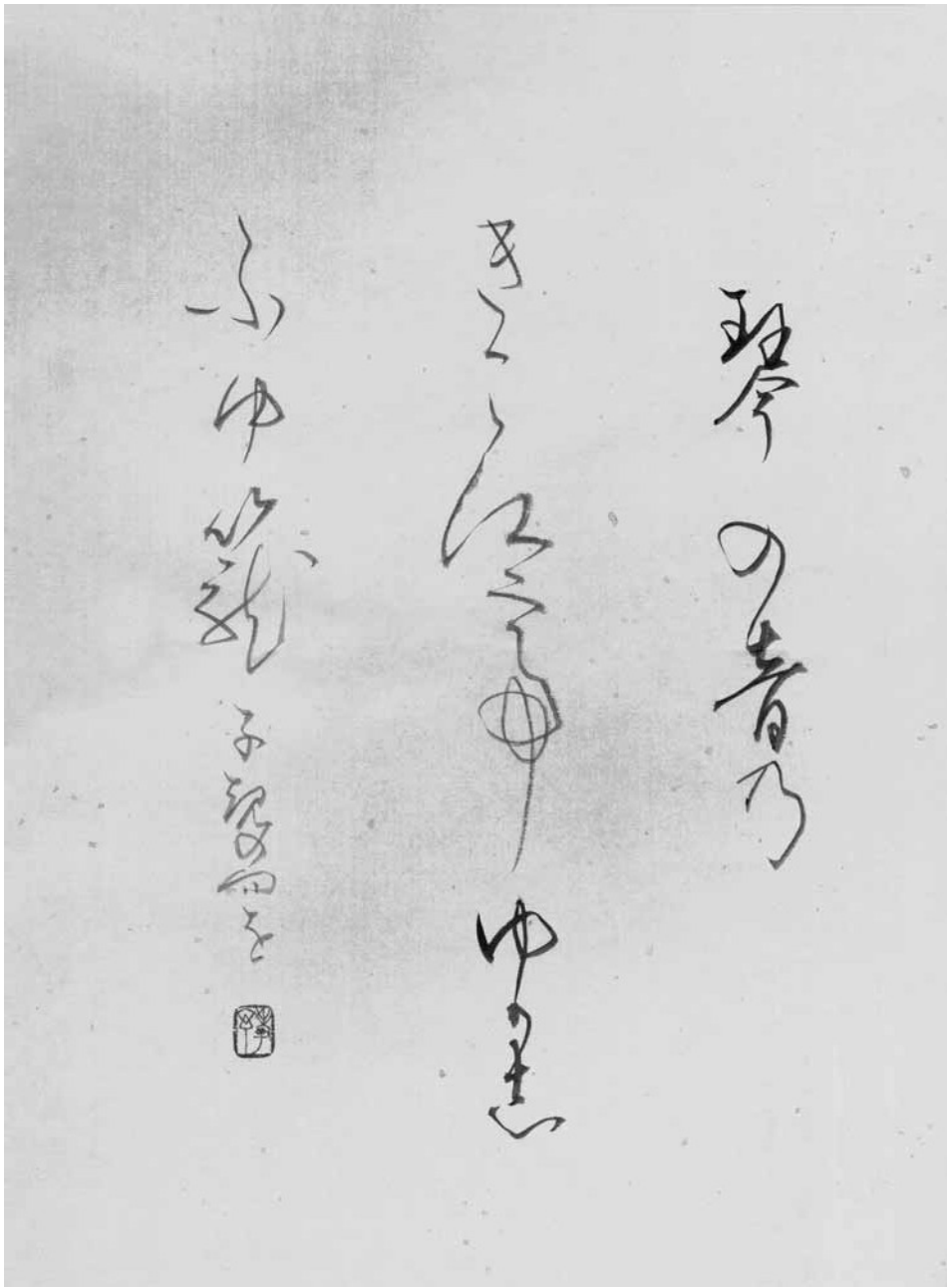
度量が大きく、物事にこだわらない様子を意味します。

今月はやや向勢に作り、柔らかでありながらよく整った字形を目指しました。教科書に出てきそうな書きぶりです。

この語句には、永字八法に見られる基本点画が全て含まれております。「気」での「そり」や「宇・宏」での冠と中身とのバランス、「豁」での偏と旁の折り合いのつけ方にも留意しながら、繰り返し書くことで楷書の基本を身につけたいものです。

筆は柔らかめの兼毫・中鋒を使用しました。

かな規定　初段以上　【12月10日締めきり】　用紙　半紙普通判（料紙可）



よみ方　琴の音の(乃)聞(きこ)え(江)て(帝)ゆか(可)し(志)冬(ふゆ)籠

創作

＊料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

小島孝予選書

習い方解説　(2)

小島孝予

琴(こと)の音(ね)の聞(きこ)えてゆかし冬籠(ふゆごもり)

（正岡子規）

冬の寒さの中、部屋で静かにしていると美しい琴の音が聞こえてきたことだ。寂しさの中に慰めや希望を見出すような奥ゆかしい情景を描写した句。

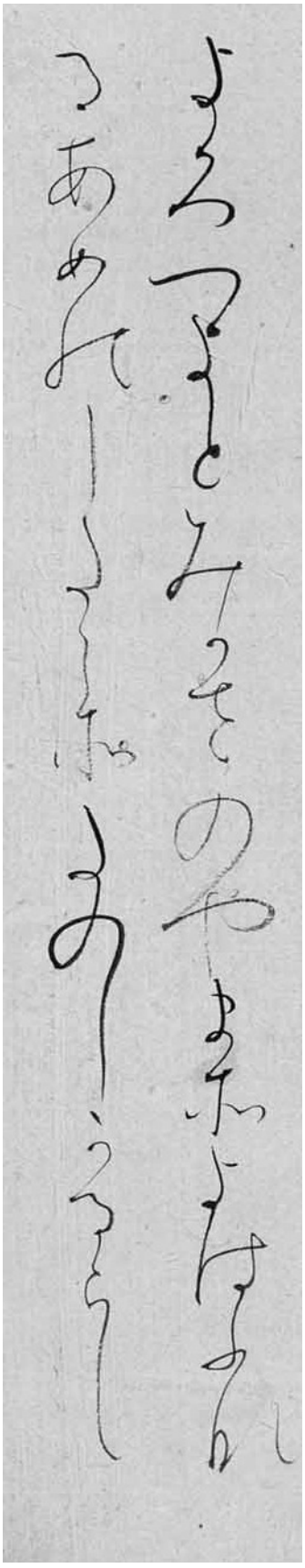
正岡子規は、写生を重視した俳句を提唱し、自然や日常の風景をありのままに描写することで、新しい俳句の世界を切り開いていきました。

子規の俳句を3行の「行書き」で表現しました。「冬籠」という季語と「琴の音」をともに引き立てることでこの俳句の奥ゆかしい情景が少しでも描けたらと思い、このように仕上げました。

「きこえて」「ゆかし」は連綿してなめらかに、「ゆ」で墨継ぎをすることで「ゆかし」の語意（何となく心が引かれるさま）にインパクトを与えました。

かな規定　秀級以下　【12月10日締めきり】　用紙　半紙タテ$\frac{1}{2}$（**料紙可**）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を**臨書**する。**部分臨書**も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。　粘葉本和漢朗詠集（掲載写真拡大120％）

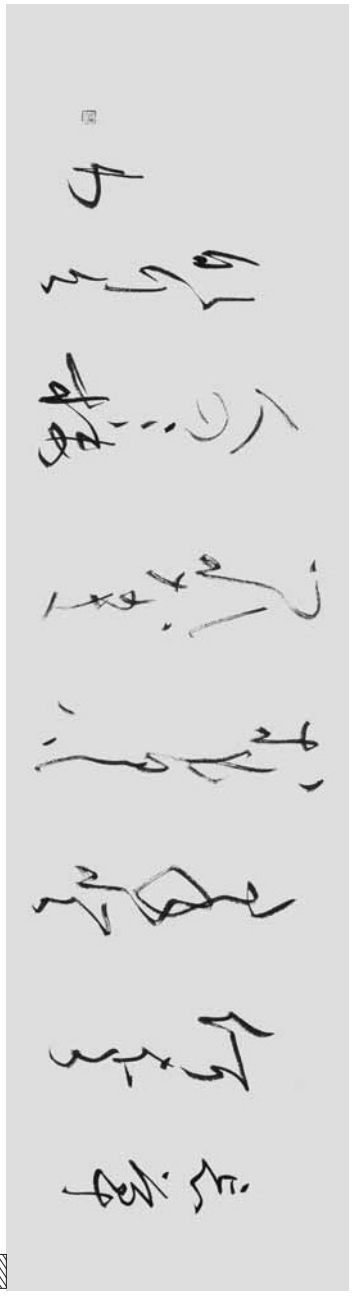


よみ方　よろづよとみかさのやまぞよばふな（可）（能多所多可）るあめのしたこそたのしかるらし

歌意　三笠山から「万歳」と唱和する声が響いて来ます。漢の武帝の嵩山の故事ではありませんが、平和な治政のしるしのようで、楽しく喜ばしいことですよ。

かな条幅規定　【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切（**料紙可**）

佐藤希雲選書



よみ方　忘草何をか（可）種（多年）と（登）思（於も）ひ（日）しは（八）つれなき（支）人の心（こゝ楼）な（那）りけ（介）り（利）

創作

※ヨコ形式に限る

出品券貼付位置

習い方解説　(2)

佐藤希雲

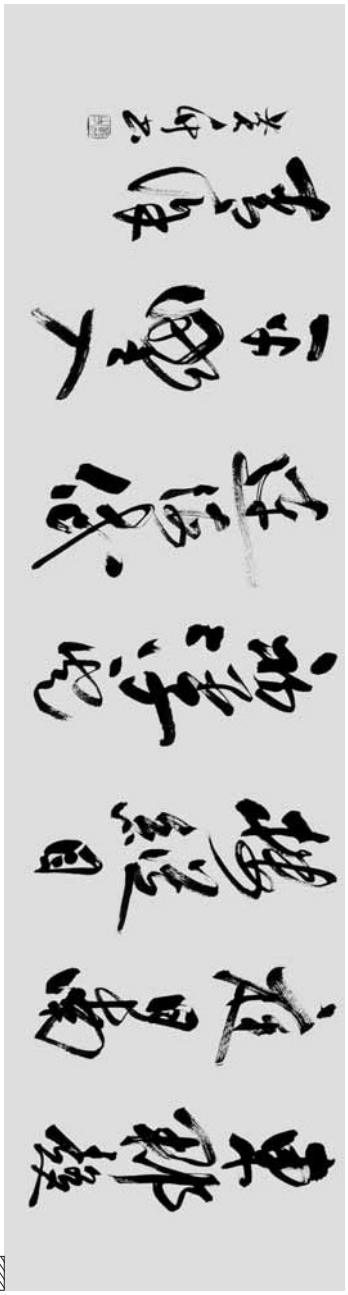
忘草何をか種と思ひしは（わすれぐさなに　たね　おも）
つれなき人の心なりけり（ひと　こころ）
（素性「古今集」）

忘れ草の種はどんな形なのだろうと思っていましたが、私につれないあなたの心がそれだったのですねとちょっとすねながら、相手を恨んでいる内容です。素性が女性の立場になって詠んだ歌です。

横形式は行間を意識しながら書いてください。墨継ぎは「こ」。

漢字条幅規定　初段以上【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

名越蒼竹選書



東郡趨庭日　南樓縱目初　浮雲連海岱　平野入青徐　（杜甫）

（東郡庭に趨（は）する日　南楼目を縦（ほしいまま）にする初め　浮雲海岱（かいだい）に連なり　平野青徐（せいじょ）に入（い）る）

書体＝自由

出品券貼付位置

習い方解説　(5)

名越蒼竹

今月は横物作品です。行草書で横物を書くときは、一般論ですが、行間を広めにとります。ただそれだけでは行間の「響き」が感じられません。そこで縦長作品以上に印象的な横広の字を作ったり、（斜め）横への長い線を見せたりする必要があります。つまり縦作品以上に行間の美しさを追求することが求められると思います。

※ヨコ形式に限る

漢字条幅規定　秀級以下【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

種谷萬城選書



遠上寒山石径斜　白雲生処有人家　（杜牧）

（遠く寒山に上れば石径斜めなり　白雲生ずる処（ところ）人家有り）

書体＝自由

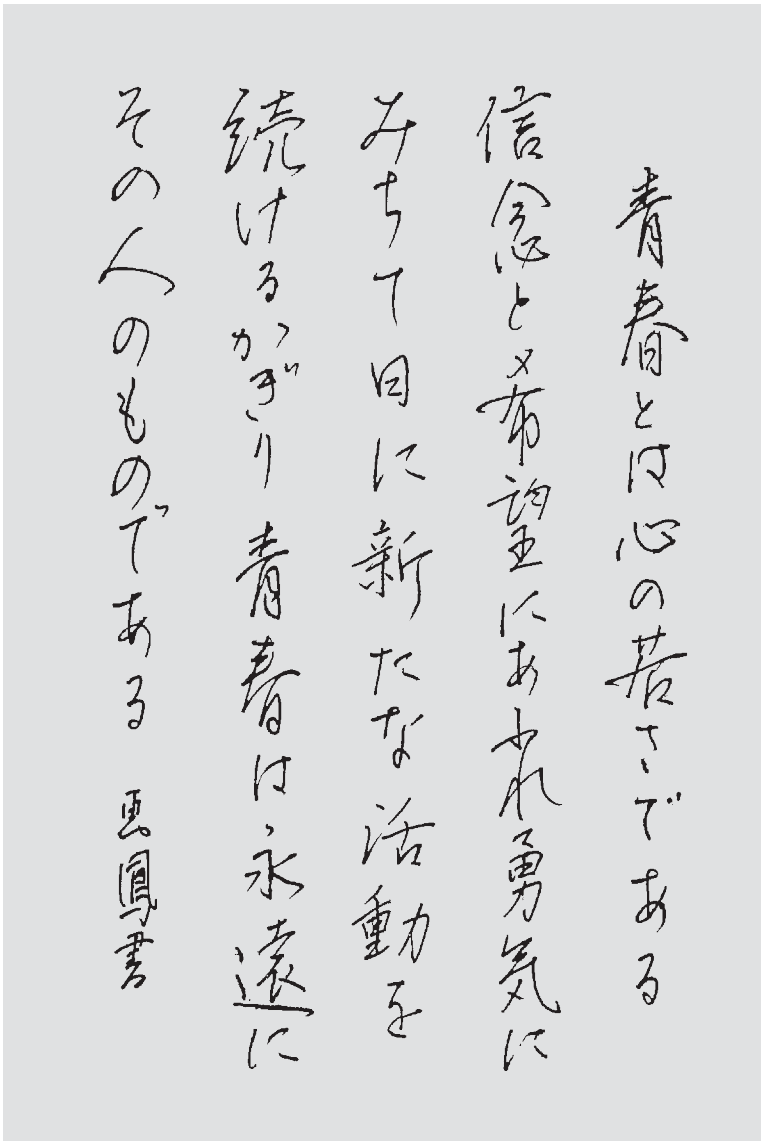
習い方解説　(5)

種谷萬城

杜牧詩『山行』を『曹全碑』風の隷書で書きました。隷書は漢代の正式書体です。起筆は蔵鋒で収筆に波勢があり、特に波磔（はたく）に装飾的な筆法が見られます。横広の字形、水平・等間隔の横画、転折部では筆を一度引き抜き、改めて蔵鋒で入筆します。漢碑の名品を臨書し、様々な表現を学びましょう。本誌に連載中の『漢字書基礎基本講座(16)』と関連動画を参考にして下さい。

ペン字規定【12月10日締めきり】

飯沼恵鳳選書



書体＝自由

◇用紙　ハガキ大（14.8×10㎝）の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フエルトペン可）

ご注意!!
用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ（ハガキ大14.8×10㎝）を守って下さい。

習い方解説 (2)

飯沼恵鳳

今月は、松下幸之助の名言集より選定。アメリカの詩人、サミュエル・ウルマンの「青春」という詩にヒントを得て、松下幸之助が自ら作ったものです。

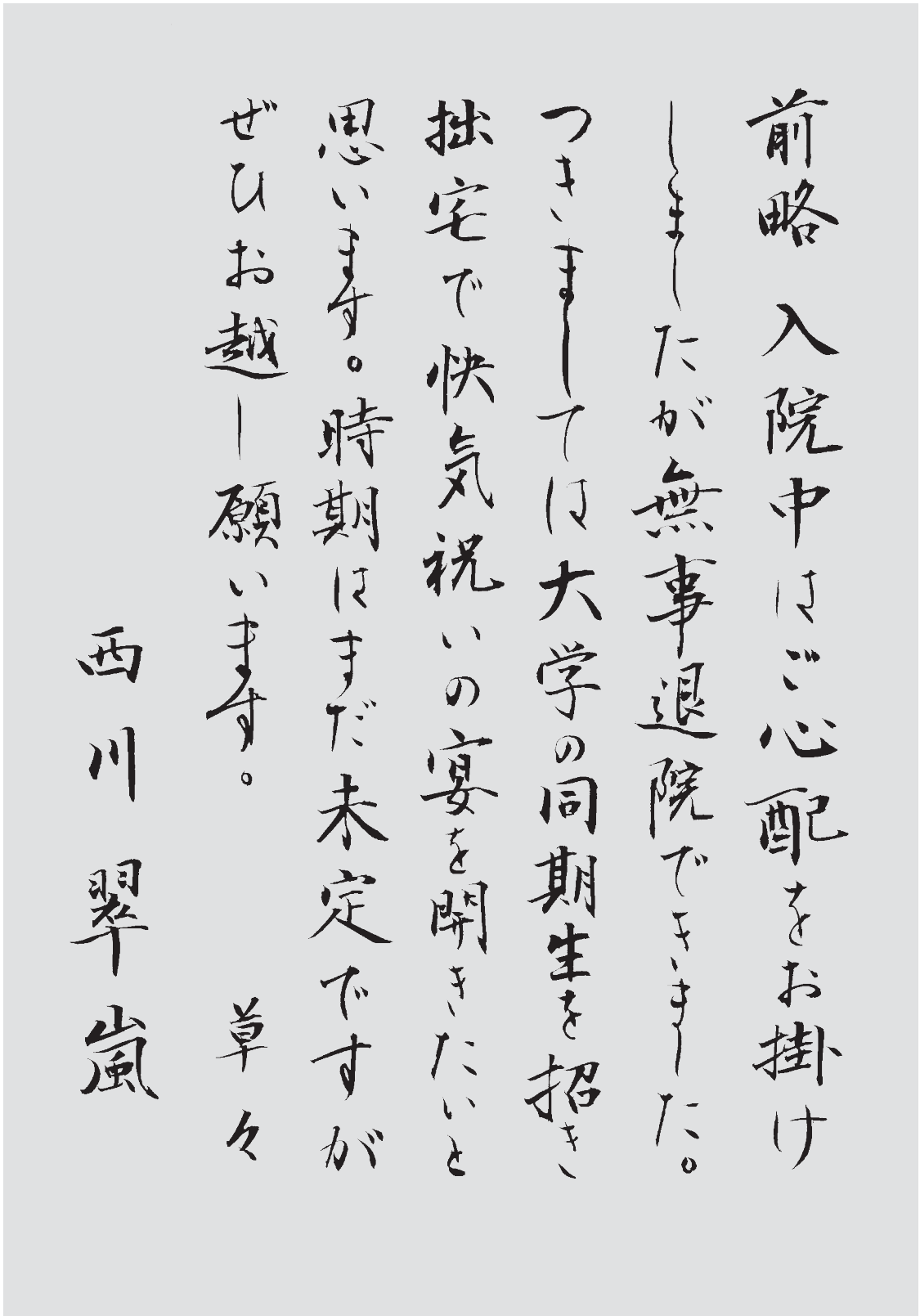
松下幸之助は、94歳で世を去りましたが、常に前向きに生き、その姿勢はまさに青春そのものでありました。

現在の、高齢化時代に相応しい名言と思い取り上げてみました。

自分自身に問いかけながら、夢と希望を持ち続け、新たなことにも挑戦してみたいものです。

その熱き懐（おもい）を胸に抱きながら、力強く、堂々と書いてみましょう。

青春とは心の若さである
信念と希望にあふれ勇気に
みちて日に新たな活動を
続けるかぎり青春は永遠に
その人のものである
○○書



西川翠嵐書

前略　入院中はご心配をお掛け／しましたが無事退院できました。／つきましては大学の同期生を招き／拙宅で快気祝いの宴を開きたいと／思います。時期はまだ未定ですが／ぜひお越し願います。草々

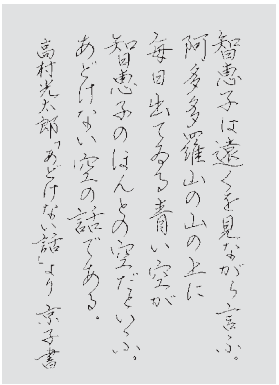
書体＝自由

（掲載手本80％に縮小）

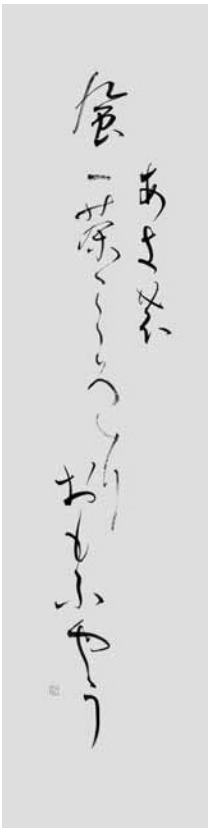
◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の氏名（号）を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5cm）　B５版コピー用紙（26.0×18.1cm）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品・各部総評　NO.773

ペン字部　師範　河原木京子
漢字とかなの調和に、余白の美しさが相まって、紙面一杯に明るく爽快な景色を表現。心に響く作品。
◎ペン字部総評　全体的に流れのある作品が多かったが濁点が抜けている作品を散見。提出前に必ず確認しましょう。（孝予評）



かな条幅部　準師範　小林　緑
やや小ぶりだがぼかしの紙に穏やかなリズムが響く。墨の濃さや潤渇も適度で書き手の温かさが伝わる。



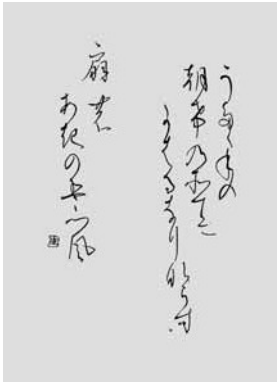
◎かな条幅部総評　書き始めを漢字にする時は、少し小さめにし墨も多過ぎない方がよい。紙質によって潤渇の工夫が必要。（洋子評）

漢字条幅部　師範　鷲山　美梢
堂々たる風格の顔法。起筆、収筆の筆法に習熟し重厚な線質を生み、向勢で豊満。学書の成果着実。



◎漢字条幅部総評　上級は着実な行草書作品が多く、線質の良否で評価が分かれた。日頃の古典学習の倣書にも佳作が見られた。（萬城評）

かな部　師範　苗代　佳恵
のびやかな線条が明るく、作品全体を美しく見せています。筆圧とリズムの変化が魅力的です。
◎かな部総評　余白を考慮した構成が多く好感が持てました。線にもう少し強弱の変化がつけられると良いと思います。（峰子評）



現代詩文書部　特選　安藤　美悠
長谷川櫂「月」五十句の一句。月夜の庭に歩み出る鶴が想われる。「歩」「庭」の左払いが見事。
◎現代詩文書部総評　素材選び、そこから後は自分の思いをどう表現するかチャレンジを。（掃雪評）



漢字部　師範　鷲山　美梢
祭姪文稿あたりの懐ろの広さ、逞しい活力のある筆線が紙面を躍動する。健康的で前途洋々の作。
◎漢字部総評　比較的行草に見応えのある作が多かったが、書き込み不足のため字形の捉え方が甘く落ち着き不足の感あり。（石雲評）

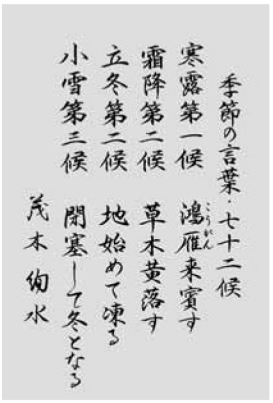


前衛書部　特選　木暮　千晶
冴え渡る墨色美と揺るぎない渇筆線の融合である。空間・飛沫などが効果的に構成されている。
◎前衛書部総評　試行錯誤を重ね、作品が進化していることを感じた。更なる変化を楽しみに。（蓮紅評）



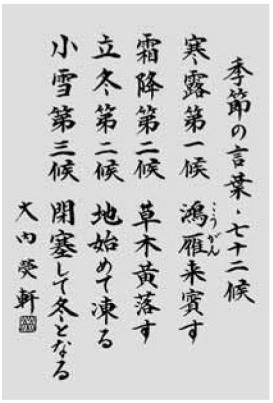
実用書優秀作品

選評　大平邑峰



特選　茂木絢水

落ち着きのある丁寧な行書作。呼吸とリズムも一貫している。



特選　大内熒軒

点画の太細強弱がよく調和し、柔らかく堂々とした作品となった。

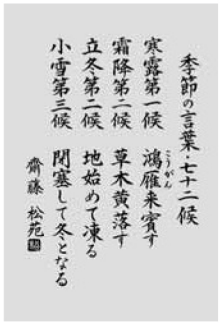
◎実用書部総評

精力的に取り組む作品多数、レベルの高いものが集まった。用具も多様化しているが、それぞれに相応しい表現を研究されたい。

（邑峰評）

今月の注目作

齋藤松苑



特選

宗苑　茂木絢水
千葉　大内熒軒
福島　三村龍苑
深大　多胡三千代
もく　本郷谷恵

秀作（50音順）

福山　池崎和美
氷壑　伊澤香雨
ここ　加藤翠陽
こだ　北爪鼓祥
若葉　工藤山房
多賀　齋藤松苑
常盤　水津恵風
江龍　田中二三代
福山　徳永裕子
堺　利守由佳理

佳作（50音順）

五月　青柳亜矢子
玉州　角張芳蘭
華仙　菊地恵水
大雲　鷺山美梢
祥華　佐藤トモ子
水茎　清水蘭舟
花祥　杉田祥風
有秋　高橋千代子
　　竹清汀琴
千葉　竹浪叙舟
四枝　丹美枝
柳賢　二上香柳
麗澤　長谷川翠
紅月　林田幹子
八街　村上佳月
竹美　横山蘭舟

入選（50音順）

紅瑤　相澤敦子
春汀　上利啓子
竹美　秋龍華
秀恵　阿部雅悠
竹原　池田俊美
深大　石井光子
一心　石森博子
幸扇　井上洋硯
八街　井ノ口春峰
玉川　今永咲子
高真　岩上郁子
四枝　大友四峰
〃　奥川麗流
啓佳　春日裕子
上泉　粕谷和子
正華　加瀬明日夏
一貫　木村閒美
深大　久下香奈
紅瑤　小板橋りか
芳蘭　小久保侑蘭
秀水　坂井初江
堂光　佐藤光耀
梓江　佐藤祥扇
澄春　新行内芳蘭
耕雲　千本松和子
紅瑤　高木百合子
花埜　高橋奎媛
有秋　武山花源
玉州　玉澤春湫
立精　千田白香
江龍　鶴見嘉美
水茎　中野柳明
八街　南雲洋子
大阪　名定萩香
琇韻　林美奈子
　　原沢雄一
澄春　深澤佳月
常盤　藤本尚子
若葉　本間富士子
華仙　柳瀬琇華
大雲　渡辺妙華
墨縁　和田藍星
（選外341名氏名略）

前衛書部（特選）

現代詩文書部（特選）



選評　山崎掃雪

素朴　重厚闊達で紙面構成も見事
雅邦　潤渇の線と運筆が秀逸
閒美　思いきった線、構成の妙
奎山　濃墨の滲みが印象的で良
渓翠　墨量・文字の大小呼応
花香　しなやかな筆遣い魅力的
和江　句と作品の表現が融合
雅悠　3行目の多様な線が響く
四峰　線の動き軽快でリズム良
苑柚　気力充実、黒と白の呼応
真理　無理なく安定した味わい
芳蘭　1行目の淡墨線が響く
奎媛　動き軽快で爽やかな空気
甘雨　多字ながら空間処理見事
雄一　錬度のある筆致安定感あり
葵龍　空間を生かす表現佳力作
良章　余白を生かした造形快い
祥舟　ゆったりと書作し余白良
治舟　格言を縦線で捉えた
喜代美　渇筆と細線が効きお洒落

選評　太田蓮紅

美紀　濃墨の気迫が冴える作
雅悠　宿墨の滲みが温かく包む
涼萩　鋭い切れ味の線が印象的
加奈子　濃淡・細線の組合せが絶妙
邑里　潤渇のリズムに気迫あり
山房　墨色変化が奥深さを表現
琴翠　やさしい線と墨色が魅力的
恵津子　独創的な造形を駆使した作
珠莉　流れる潤渇線と躍動感
史江　造形の組み立てと線絶妙

今月の 特別研究部優秀作品（特選）

選評　下谷洋子　種谷萬城　北村白琉　白石和楓

小品の部

現代詩文書（玄穹）千葉陽子「文屋亮のうた」



千葉陽子書　35×135㎝

◆多筆と想像する大字は、滲み美しく大らかで動きが面白い。下部細字は丁寧で、流れ・バランス・ブロック構成が見事で、まさに幻想的である。（和楓評）

臨書（菊月）新井恵子「針切」



新井恵子臨　35×135㎝

部分拡大



◆息の長い渇筆が美しい。潤筆も柔らかみを帯びた温かさで、美しい墨色が映える。渇筆の大胆な筆毛の開閉をさらに研究したい。（洋子評）

臨書 笨　睦月「張遷碑」



笨　睦月臨　135×35㎝

◆張遷碑特有のゴツゴツした刻線の魅力を、筆で表現するために筆法を工夫し、創意を加えた線を用いた臨書。潤渇の変化を加え見応えのある作品に仕上がった。（萬城評）

前衛書（大阪）湯原希風「エキスポ」



湯原希風書　136×35㎝

◆「エキスポ」と題した、大阪での万博から発想を得た作品であろうか。新しくて意外性があり、これぞ前衛書と心惹かれた。（白琉評）

〈小品の部〉
創作の部（37点）
漢字―7点
かな―1点
現代―18点
篆刻―1点
前衛―10点
臨書の部（38点）
漢字―33点
かな―5点

総出品点数 75点

〈特選候補者〉
（創作の部）
「漢字」四枝及川　豊流　水茎　高岡　秀汀
「かな」伊呂　齋藤　杏邑
「現代詩」大雲　長島　僊雨　伊呂　齋藤　久子　もく　西川　藤象　四枝　奥川　麗流　四枝　塚田　美翠
「前衛」月華　中塩　朱華　清流　渋谷　充律
「篆刻」蒼原　庄司　櫻空
（臨書の部）
「漢字」若葉　工藤　山房　華祥　加藤　雅芳　東総　薄田　春緑　八街　十河　春景　八街　大日向　幽香　千葉　石川　晴洞　大雲　宮原　香扇　華祥　中岩　渕俊雄　八街　大日向　幽香　大雲　宮原　香扇　千葉　石川　晴洞　

大作の部

前衛書　（容洲）　阿部邑里「風の色」



阿部邑里書　60×180㎝

◆潤いと深みのある墨色と渇筆がうまく調和して、趣きのある大きな作品となった。左から右に流れながら、3つの塊が響き合っている。（白琉評）

臨書　（大雲）　舟窪恵美「張遷碑」



舟窪恵美臨　135×70㎝

◆濃墨を多量に筆に含ませ、太く重厚感に溢れる作品に仕上げた。圧倒的な迫力に臨書を越えた気魄を感じ、魅せられる。（萬城評）

現代詩文書　（大拙）　畠中成山「倉木麻衣の詞」



畠中成山書　60×180㎝

◆気宇大の漢字をバランス良く2行にまとめあげていて、特に渇筆に魅力が溢れている。下部の細字も余裕があり見事な作品である。（和楓評）

臨書　（上泉）　早部朗「針切」



早部朗臨　170×53㎝

◆針切の拡大臨書。これだけ拡大するとバランスが難しいが、字形も含め連綿のリズムを巧くとらえている。ここから少し発展的な臨書に是非取り組んでほしい。（洋子評）

〈大作の部〉

創作の部（32点）
漢字―4点　かな―4点
現代―9点　前衛―15点
臨書の部（11点）
漢字―10点　かな―1点

総出品点数 43点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」青蓮 大町 菜圓　柴田 高橋 蒼香　秀恵 阿部 雅悠
「かな」AI 清水由紀子　水茎 清水 蘭舟
「現代詩」宗苑 臼井 真理　四枝 伊藤 四夏　花埜 高橋 奎媛　炎佳 金田 都里
「前衛」月華 三塚 倫果　玉州 遠藤 和香　紅瑤 川田 弘子　蓮紅 大友 紅蓉　蓮紅 佐藤 紅茜　一弦 工藤 和香　誠和 石崎 甘雨　大拙 佐藤みえ子
（臨書の部）
「漢字」遊山 紺野 遊山　千葉 佐藤 桂香　大雲 江本 興舟　菁湖 北嶋 菁湖

漢字研究部（張遷碑）

選評　川島舟錦

今月のホープ作品



相楽天翔

漢字研究部　特選　相楽天翔

1000点の作品の中から選ばれたホープ1点は、作品（隷書）と落款（行草）がよくマッチしており、日頃の鍛錬と精進を窺い知ることができます。

益々のご活躍を期待いたします。

◎漢字研究部総評

たくさんの作品を審査し終えるころには、いつも、渾身の作品に出合うしあわせを感じます。洗練された深い線質を追い求めることは大切だと思っています。

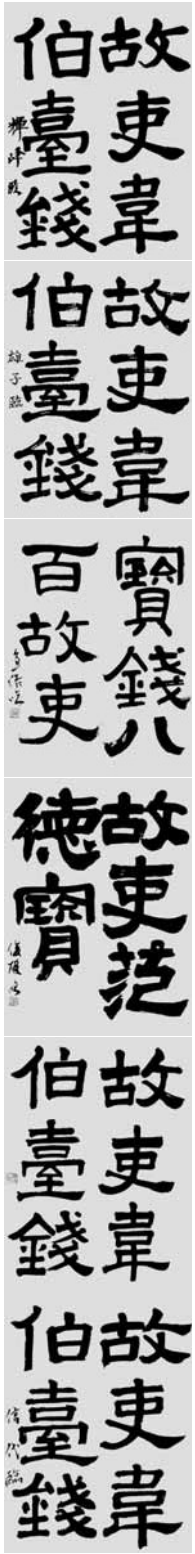
○全体を把握して、部分の練習をする。

○何枚も何枚も、できるだけたくさん練習を重ねる。

筆脈を意識しながらたくさん書き込むことで、リズムが生まれます。人柄が加味されるところまで続けたいものです。



陽子　敦子　香凜　雅悠　照子　雅心



輝峰　雄子　直浩　俊雄　理扇　信代



良子　一隅　麗流　えり奈　蘭舟　雅芳



紫汀　松雲　秀行　裕美　淳子　紗香

かな研究部
（針切）

選評　庄司紅邨

今月のホープ作品



七五三木　和美

かな研究部　特選　七五三木　和美

墨の潤渇のコントラストをしっかりとらえ、美しく表現できています。立体感のある作品になっており、ひきしまった線が心地良く響きます。

◎かな研究部総評

針切は、線に筆圧を加えないで書いているように思えますが、行の中で抑揚と緩急を見事に使いわけている古筆です。しっかりととらえて表現して下さい。














美祐耶衣梢香　和佳智子恵子　真眞砂紀恵美子　百合子哲香苑

かな研究部成績表

特選（60首順）

書泉◎七五三木和美　明香矢部香苑　やま田玉木哲子　紅瑤高石百合子　樹原葛木恵美子　静翠安嶋眞砂子　附中金城智子　桜月苗代佳恵　清境野和衣　玉田石井祐美梢　藍雲鷺山智子　華祥三澤美子　上泉中村シゲ子　光彩楽子　楓会須田倫子　楓瑤浅井和江　光優櫻井貞　たか岩崎龍　上泉中村永子　花舞伊藤悦子　大雲三澤祥　日露白琉松関陽子　中森川地池田三石春子　森地会石和舟子　白石田和舟　新橋子石橋貝耀　磯貝清美　梅津佳代子　大沢淳子　小野寺朱星　小野美和子　青蓮渡辺　たか大雲　書游上泉

秀作（60首順）

上華正泉叶野日子　菊地恵水夏　華祥菊地洋子　青蓮菊地明朗　蔦原青木玉枝　八街青木梅香　青湖北鼓祥　附中熊谷琴翠　静翠竹鈴　椿樹小島優琴　紅瑤こだま木村優楓　幽香北爪青湖　青蓮小熊國峰　華祥高木恵美　遊山紺野遊　澄華高木昭華　高木篠原恵美子　八街菅原右　たか狼渡篁　遊華猿渡山　清月高橋幸苑　滝澤高れい裕子　玉沢徳永仙　〃千葉文月並木　もく上青高橋　上泉萩原洋子　蓮紅泉麗子　青蓮山崎奈都　八街宮本梨帆　菁湖早田美奈子　林部朗　上内雪　森村吉田　横山蘭　青蓮翠綾　清月美恵舟　紅瑤昌苑　竹美　山崎恵　佳月　石橋子

入選（60首順）

唯一逢沢　阿部悦子　唯一恵子　新井彩心　飯島トミ子　石森博子　伊東京子　井上英二　井上清泉　上横手真美　上和泉真美　一心やま　清月平和　菊井佑朋　梅桃森あか　玉川池崎和美　上泉石井玲子　大高一美　大鶴杏子　加藤雅芳　北村登志子　呉松崎千恵　権代雪華　小梅千恵　齋藤杏邑　坂本素朴　坂本里美　佐崎さゆり　佐藤綾奈　佐藤華園　島外美子　代葉子　武田花源　武山宗楓　田畑寿美子　鶴亜希子　中澤フェ子　中村裕子　中野恵美子　浜野久美子　濱嶋久幸　早坂聖朋　平かつ子　藤深登尚子　藤本喜恵月　谷知裕美子　八村上美智恵　八橋紀舟　山本裕子　山縣令子　青木玉枝　渡邉梅香　颯留　齋田舞夢　佐々木浩子　佐々木和子　佐木舟　佐間洋子　櫻田智子　込山美紳　小林萩江　小木暮美紀　小木曽泰香　黒沢安都美　久根崎美里　北嶋幸代　神田典子　川元柴仙　川崎帆乃佳　河岡星扇　河合和敬子　加藤翠陽　加瀬晴美　小澤和子　荻原玉藻　岡村由紀子　大島昌子　大太田良子　大川雪運　遠藤美津枝　榎田和子　梅山琴舟　鶏澤植田紅雨　岩上伊与田　猪股白鷺　伊藤幸子　伊藤幸光子　石川玲子　石井知津子　池崎和美　井口泰助　五十嵐茉穂　安藤美悠　安藤桃翠　熱海心彩　浅野みなミ　秋川葉ミェ　秋冨殉子　一常盤　光華　仙合　坪和春　洞春　黎明気　福山あか　正華光　正華堂　立一精　〃わか　こだ江　梧江　祥紫　素書泉　素筆　蕉書　伊呂　齋藤真一　高真閃　竜泉　華祥紫　華祥　森地桃　梅桃　玉川泉　上和泉　菊月　清月　唯一心　逢沢　阿部悦子　唯一恵子　新井彩心　飯島トミ子　石森博子　伊東京子　井上英二　井上清泉　上横手真美　上和泉真美　一心やま　清月平和　菊井佑朋　梅桃森あか　玉川池崎和美　上泉石井玲子　大高一美　大鶴杏子　加藤雅芳　北村登志子　呉松崎千恵　権代雪華　小梅千恵　齋藤杏邑　坂本素朴　坂本里美　佐崎さゆり　佐藤綾奈　佐藤華園　島外美子　代葉子　武田花源　武山宗楓　田畑寿美子　鶴亜希子　中澤フェ子　中村裕子　中野恵美子　浜野久美子　濱嶋久幸　早坂聖朋　平かつ子　藤深登尚子　藤本喜恵月　谷知裕美子　八村上美智恵　八橋紀舟　山本裕子　山縣令子　青木玉枝　渡邉梅香　颯留　齋田舞夢　佐々木浩子　佐々木和子　佐木舟　佐間洋子　櫻田智子　込山美紳　小林萩江　小木暮美紀　小木曽泰香　黒沢安都美　久根崎美里　北嶋幸代　神田典子　川元柴仙　川崎帆乃佳　河岡星扇　河合和敬子　加藤翠陽　加瀬晴美　小澤和子　荻原玉藻　岡村由紀子　大島昌子　大太田良子　大川雪運　遠藤美津枝　榎田和子　梅山琴舟　鶏澤植田紅雨　岩上伊与田　猪股白鷺　伊藤幸子　伊藤幸光子　石川玲子　石井知津子　池崎和美　井口泰助　五十嵐茉穂　安藤美悠　安藤桃翠　熱海心彩　浅野みなミ　秋川葉ミェ　秋冨殉子　一常盤　光華　仙合　坪和春　洞春　黎明気　福山あか　正華堂　正華光

審査会員の部　結果発表（出品数 漢字27点・かな10点）

選評　小竹石雲・平川峰子



西川　藤象



江本　輿舟

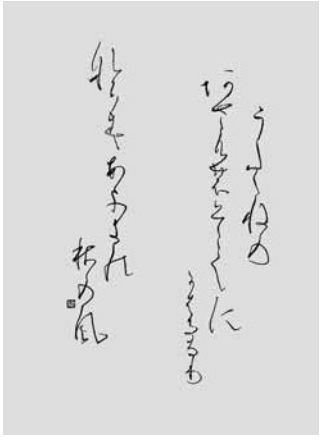
〈次点・50音順〉



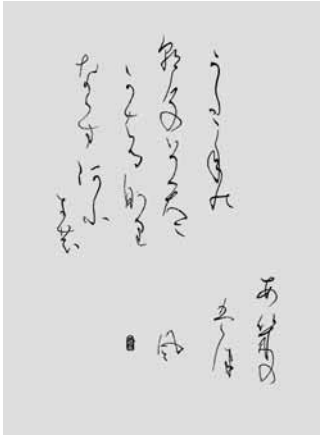
茂木　絢水



小川　白柳



茂木　絢水



神谷　雲卿

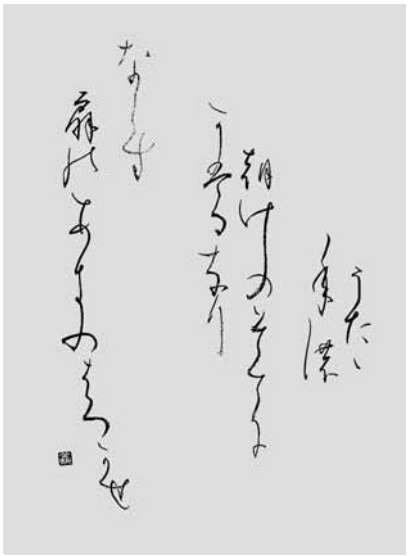
漢字秀逸作



大内熒軒

迷いのない強靭な筆線は、日頃の鍛練に裏打ちされた運筆の確かさだろう。大胆さのなかに気遣いされた細線が心地よい。「若」が少し鈍かったのが惜しまれる。　（石雲評）

かな秀逸作



佐藤一義

散らしの構成に工夫の跡がうかがえ余白の見せ方が上手いと感じました。文字の大小の組み合わせに行の長さを考慮し、強い線条と線質が魅力的です。（峰子評）

「書道芸術」特別昇段級試験　師範合格者模範作品

漢字　第三種（楷・行・草計3枚）

大雲　藤井花香

・楷行草とも自家薬籠中のものとし、その表現力は、それぞれの特徴を捉え群を抜いて素晴らしい　（石雲評）

楷書　雁塔聖教序臨書



行書　創作



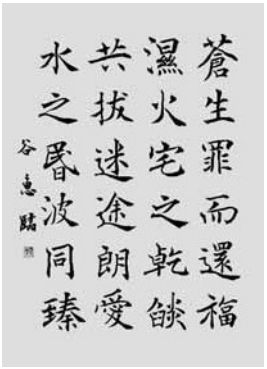
草書　十七帖臨書



もく　本郷谷恵

・3作とも骨力のしっかりした線と、運腕の動きの雄大さが圧巻。作品の発するエネルギーに気品を感じる。　（石雲評）

楷書　雁塔聖教序臨書



行書　創作



草書　十七帖臨書

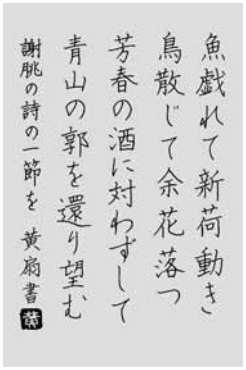


ペン字　第三種（楷・行・草計3枚）

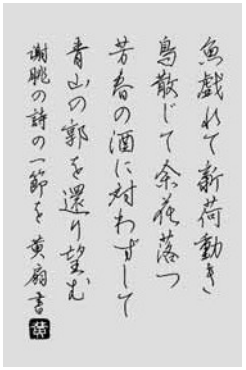
月華　浅野黄扇

・温雅な字形で、行の収め方も良い。草書の流れも一貫して、暖かさを感じさせ、品格ある作品となった。　（蒼玄評）

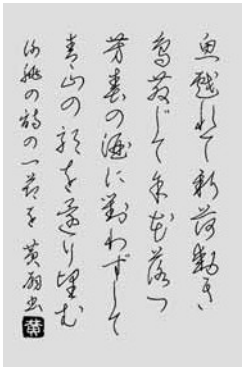
楷書



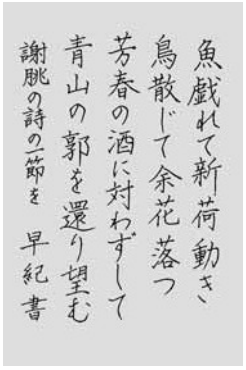
行書



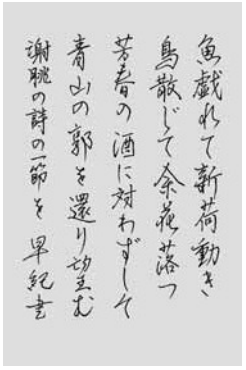
草書



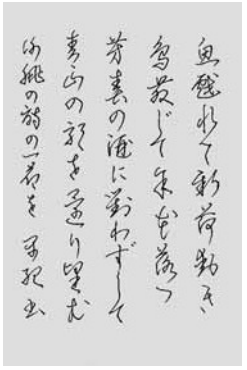
楷書



行書



草書

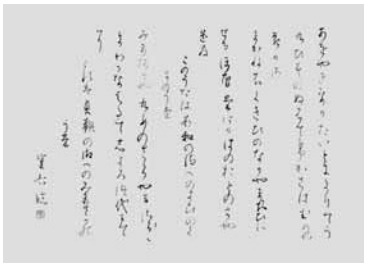


前橋　黒田早紀

・しっかりと伸びのびとした線である。行書、草書もバランス良くまとめて行間の白が輝いている。　（蒼玄評）

かな条幅 第三種（臨書・創作・創作 計3枚）

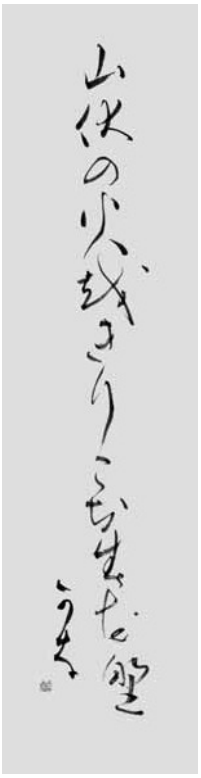
臨書　関戸本古今集



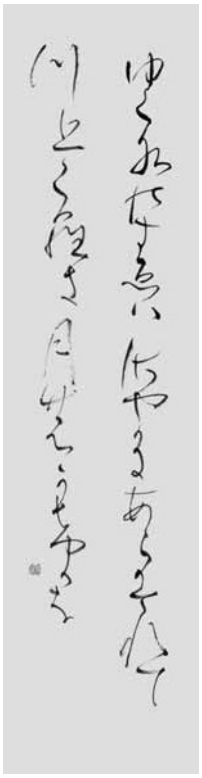
たか　猿渡篁右

・3点ともそれぞれ錬度よく仕上がりました。特に俳句は、強い線でリズムに切れがあり完成度が高い。（洋子評）

創作（俳句）



創作（短歌）



総　評

平均的な基礎力をつけたい

審査長　下谷洋子

今年度の秋の昇段級試験の審査が終わりました。各部については短評をご覧いただきますが、秋は漢字とかな条幅、ペン字の3部門に三種があります。四段以上の受験者には作品内容によって原級据え置き措置制度もあり、師範合格まで相当ハードルが高くなっていきます。書の多様性を学び技術と知識を深めるという競書誌の性格から、皆様に万遍なく実力をつけていただくための措置です。今回も準師範からの昇格が長期間かなわない方には、審査員がご本人宛に注意点を記してお送りしていますので、参考にし課題を克服して来期また臨んで下さい。

臨書の課題は、春と秋、それぞれ同じ古典・古筆を扱いますので普段からの学書が可能です。時間をかけて丁寧な向き合い方を望みます。

第三種短評

漢字

雁搭聖教序の繊細な冴えの表現が明暗を分けた。行書は字形はもちろん、紙面への収め方の配慮が必要。十七帖は原帖の筆意の捉え方が大切。実画、虚画を弁えたうえで運筆したい。（小竹石雲）

かな条幅

臨書は関戸本を忠実に学ばれた作品が多かったが、創作の俳句では前半の字が大きすぎて流麗さに欠ける作品が目立ちました。和歌は墨色濃淡、太細による景色を大切にしましょう。（小島孝予）

ペン字

丁寧に仕上げられた作品が多く見られた。行間や字形の統一を意識し、文字と行の章法が整えばさらに美しく映える。準師範から師範へは、かなりの狭き門であるが、楷書・行書・草書をそれぞれ調和よくまとめる技術が、昇格に向けて必要となる。（千葉蒼玄）

第一・二種短評

漢字

〈一種〉「高貞碑」の特徴である強い筆力で書かれた作品が多かった。ただし、臨書なのに落款に「書」となっているのがあり残念。古典臨書は積み重ねが大切。精進ください。（東福青篁）

〈二種〉楷書と行書のどちらかが良くてどちらかが悪い、という場合が多かった。不得意を克服したい。また、細字の筆に慣れていない方も多く、日頃の練習が大切と思う。（佐藤希雲）

かな

〈一種〉全体的に高野切の特徴を捉えていました。文字の大き過ぎる作品や漢字用紙を使用した作品が散見されましたが、かなの連綿線が滞るのでかな用紙を使用しましょう。（勝山初美）

〈二種〉臨書は概ね特徴を捉えていました。創作は参考手本をよく勉強されていましたが、文字が大き過ぎバランスを欠いた作品もありました。落款の位置にも注意しましょう。（勝山初美）

漢字条幅

〈一種〉5字句を楷書または行書で表現。筆勢もあり、墨量の豊かな作品も見られたが、全般的に小粒な作品が多かったように思う。条幅に慣れ、ゆったりと規模雄大な作品を。（三浦鄭街）

〈二種〉楷書は顔真卿特有の書風を捉えた臨書。行書は古典学習を礎にした正統な字形。これが良否を分けた。条幅作品としてバランスの良い章法、落款の調和も大切です。（種谷萬城）

かな条幅

〈一種〉先生の手本をよく観て、部分練習をしながら作品に仕上げるようにして下さい。特に連綿線は大切です。また展覧会で墨色や潤渇の表現を観察するのも勉強になります。（京　絹子）

〈二種〉手本を参考に紙面に対しての余白、潤渇を大切に作品作りをして下さい。また筆の浮沈に気をつけて、作品が立体的に見えるように心がけるのも大切です。（京　絹子）

ペン字

〈一種〉課題に真剣に向き合ったと思われる作が多かった。時折、丁寧さに欠ける作品に出会ったが、じっくりと腰を落として取り組んでいただきたい、と強く希望します。（佐藤希雲）

〈二種〉楷書は丁寧に、しっかりと落ち着いて書かれており佳い作品が多かった。行書は運筆のスピードが速く、滑らかさに欠ける作品があった。日頃の古典勉強が大切と思う。（東福青篁）

「書道芸術」特別昇段級試験師範合格者

漢字 28名

田無　飯塚　郁子
〃　稲村　智恵
千葉　井原　俊子
倉吉　今井　景月
千葉　今田　南
葛城　宇野澤　萌
　及川　明美
千葉　大土奈々可
紅蘭　小渕　知蘭
正華　金田　真優
玉川　川上かおり
〃　神田加奈子
蘇我　後藤　恵子
やま　白鳥真智子
見越　関口　芳枝
竹美　田村　和代
恵泉　田村美和子
大雲　裙坂　有紗
もく　土橋　律山
秀苑　長瀬　茉依
千葉　林　恵子
洞書　福田　桃子
田端　福本佳奈美
大雲　藤井　花香
もく　本郷　谷恵
一閃　村山　千華
　望月みどり
書泉　森　万里子
（50音順）

ペン字 21名

雲雀　秋山　雄心
月華　浅野　黄扇
幸扇　遠藤　里秋
附中　織田眞奈美
紅風　折原　成実
京橋　神尾喜美恵
楽書　工藤千枝美
前橋　黒田　早紀
若美　斉藤　房江

かな条幅 12名

森地　池田　幸子
附中　大石三枝子
〃　國峰　琴翠
静翠　佐野さとみ
たか　猿渡　篁右
書泉　菅原　澪花
澄春　高橋　幸苑
澄春　高橋　幸苑
AI　武内みどり
清月　德江　淳子
長月　原澤　典子
菊月　宮崎　英明
（50音順）

正華　柴田　洋子
もく　髙村　藤舜
華仙　竹井　香華
天璋　中里　亮子
楽書　中村　陽子
佑朋　原　祐子
澄春　深澤　佳月
　松本早耶香
月華　三塚　倫果
雲雀　山崎　紫心
無門　山中　清玉
天璋　横堀　修一
（50音順）

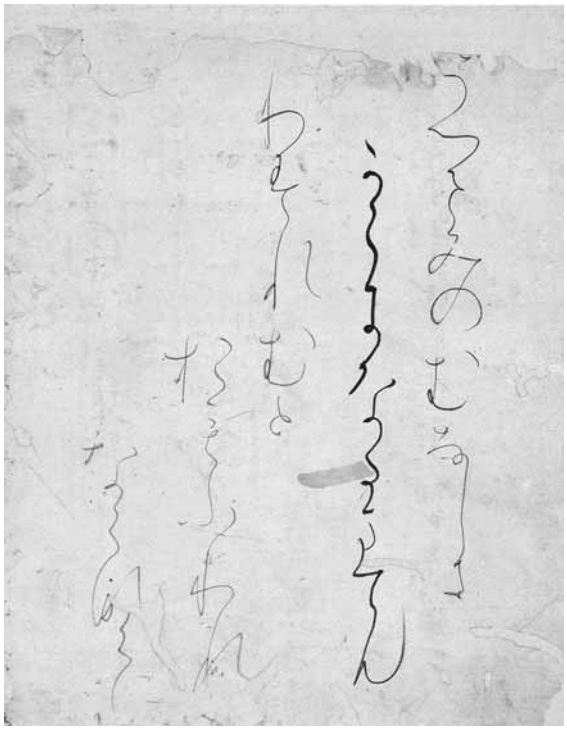
おめでとう
ございました

予告　2025・12月号（776）の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

（１月15日締切）

古筆鑑賞 ㉖1

升色紙（伝 藤原行成筆）③



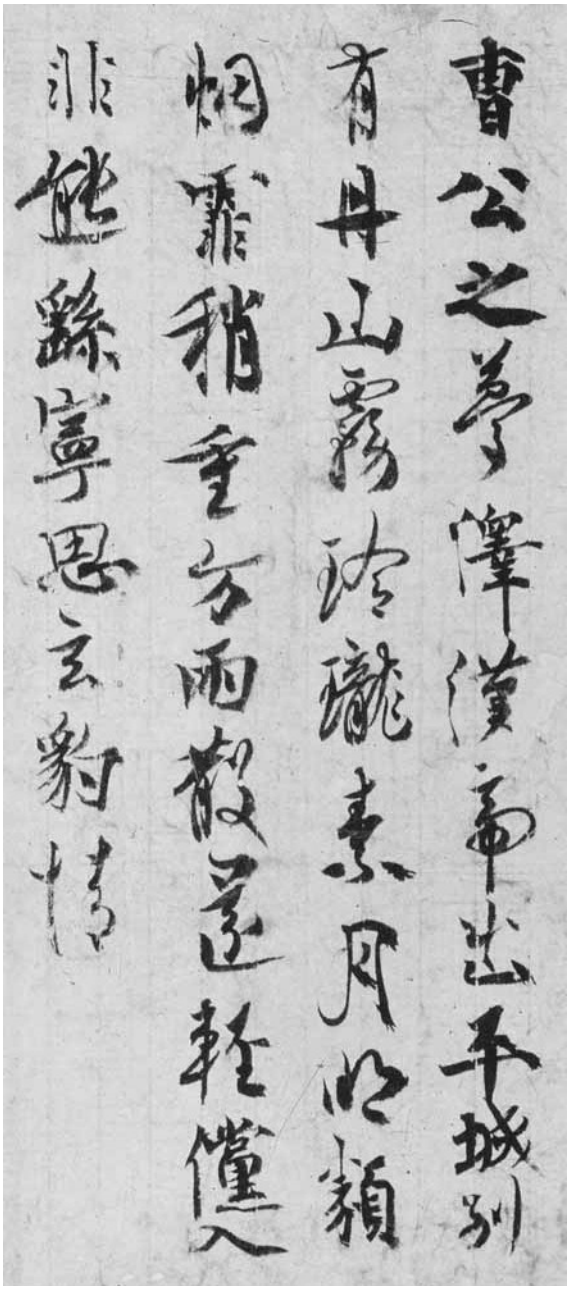
（掲載図版・70％に縮小）

〈よみ〉

うつせみ（世）のむなし（奈）き（支）
から（可）になる（尓）までも（万）（无）
わすれむと（春）
おもふ（於毛）われ
ならなく（那）に（久）

古典鑑賞 ㊼7

李嶠詩断簡（伝 嵯峨天皇筆）③



曹公之夢沢、漢帝出平城。別／有丹山霧、玲瓏素月明。類／烟霏稍重、方雨散還軽。儻入／非熊繇、寧思玄豹情。

（掲載図版・70％に縮小）





＊12月の月例競書の締切日は

12月10日(水)です。

「書道芸術」776号(12月号)の発送が12月5日(金)の予定ですので、最新の級の調査が間に合わない場合があると思います。この場合は、事務局で級位の方の昇級調査をいたします。**出品券に現在の級に加えて、赤で未調査とご記入**の上、作品をお送りください。

公益社団法人 全日本書道連盟

＊毎日書道展会員以上の方は、ぜひご加入ください。＜年会費 12,000円＞
＊毎日書道展会員以外の方でも本院会員ならば加入が可能ですので、院の事務局までご連絡ください。なお、個人でも加入は可能です。

※詳しくはホームページをご覧ください
ホームページはこちら☞http://shoren.jp/

▼検索バーに入力してチェック
全日本書道連盟 検索

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和七年十月二十五日　印刷
令和七年十一月一日　発行
（毎月一回一日発行）　書道芸術　第七七五号

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款（印のみも可）を入れる。

●出品資格　高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、**締切日必着厳守**

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、㈠**初めて**出品のときは「**10級**」と書く

㈡「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、**違反作品として氏名を掲載します。**

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

＊段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…段位は漢数字　初、二、三…で書いてください。

＊級位の方は、出品する月の本誌（最新号）で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、**現在級を書き「未調査」**と明記してください。

●規定部（自分の段・級で出品）

部門	漢字		かな		漢字条幅		かな条幅	ペン字
段級位	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	10師～10級範	10師～10級範
用紙	半紙	半紙	半紙	半紙たて½	半切	半切	半切	はがきサイズ
書体・内容	創作（書体自由）	創作（楷書）	創作	臨書	創作（書体自由）	創作（書体自由）	創作	書体自由

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●研究部（掲載課題の臨書）

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。

・かな研究部門は料紙使用可。料紙貼りつけも可。

●自由部（段、級によらないもの）

部門	用紙	内容
前衛書	半紙	創作
現代詩文書	半紙	創作
実用書	左記	書体自由

〈実用書部門・出品規定〉

○用紙　半紙横½（24.5×16.5㎝）、B5コピー用紙（26×18.1㎝）も可。

○課題　掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

☆審査会員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。

・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
〒101-0031
東京都千代田区
東神田1―16―7
東神田プラザビル3階
公益財団法人 書道芸術院
電話（03）3862―1954
FAX（03）3862―1957
ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時 の間にお願いいたします。（土・日・祝日は休み）

送料

1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和七年十月二十五日印刷
令和七年十一月一日発行
定価　1部　七五〇円
編集兼発行人　下谷洋子
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話（03）3862-1954
FAX（03）3862-1957
振替　00150-4-135058
ホームページアドレス　http://www.linc.co.jp/shogei/